



昨年5月26日に行われたプレ植樹祭で

▲当日は、3カ所・計3haの会場に参加者一人ひとりが苗木1本以上を植樹します



▲約1万人が参加し、48種2万本の苗木を植えた北海道苫小牧市での第58回全国植樹祭

# 水と緑を育む多様な森づくりをめざして

会場となるのは、大野台の中央に位置する県立北欧の杜公園。総面積は200haで、その名称は北欧の牧歌的な雰囲気由来しています。森吉山を望む広大な緑地に、秋田スギの森や池沼が点在し、四季を通じて多くの人々が訪れます。記念式典と植樹行事への参加規模は約1万2千人。うち県外招待者は2千人、県内招待者は7千5百人（公募選出3千人を含む）が見込まれ、2千人のスタッフが大会運営を支えます。式典会場は公園東寄りの大芝生広場内ここに、秋田の伝統的な家屋に見られる中門づくりの「お野立所」、またその両

となり、皇居で両陛下が秋田スギ苗木を鉢にお手植えされ、現地に移植されました。第59回全国植樹祭の開催にあたっては、平成15年度に全国にさがかけて制定された「秋田県ふるさとの森と川の保全及び創造に関する条例（愛称・水と緑の条例）」に基づき、生態系に配慮した多様な森づくりや、森とふれあう森林文化の再発見、木を活かす循環型社会の形成をめざし、「水と緑の県民運動」の展開につなげていくことが基本方針とされています。

## 式典終了後は市の郷土芸能が多数出演するアトラクションも

第59回全国植樹祭では、水と緑を育む多様な森づくりのために、次のとおり「3つの森づくり」が計画されています。  
(1)ふるさとの原風景・再生の森づくり  
▽健全な生態系の維持・回復、生物多様性の確保の視点に立った「ふるさとの原風景」、里山・広葉樹林の「再生の森」づくり▽会場はエリアA（写真参照）▽主として県外参加者がブナ、トチノキ、コナ

## 「再生の森づくり」など3つの森づくりを計画

会場のイベント広場では、特産品の展示・販売コーナーが設置されるほか、昼食時には秋田の食材を生かしたオリジナル弁当も提供され、おもてなしの心で秋田の良さを積極的にアピールします。

## 開催理念―多様な森づくりを後世に伝えるために

治山・治水や生物多様性の保全、水源かん養、地球温暖化の防止機能、癒しなど、多面的な恵みを与えてくれる森林。秋田県・北秋田市では、全国植樹祭を一つのイベントに終わらせるのではなく、森づくりを後世へと継承することを開催理念としています。

ラ、ミズキ、ヤマモミジなどの広葉樹の苗木を植えます  
(2)親水空間・ふれあいの森づくり  
▽水と親しむことができ、森林環境学習福祉や医療など、さまざまな活用ができるふれあいの森づくりを行います▽会場は、園内の沼に接するエリアB。主に県内参加者が、カツラ、エゾアジサイなど水辺環境に適する樹種、ふれあい環境に適する花木を植栽します  
(3)秋田スギ・資源循環の森づくり  
▽適正な間伐促進、スギ人工林の生物多様性の向上を図るための複層林化など、地球温暖化防止の視点にも立った資源循環の森づくりを実施します▽会場はエリアC。主として県内参加者が、間伐地に秋田スギを植栽します。  
※当日の植樹行事は早朝から実施されます。



第59回全国植樹祭会場略図 (基本計画より)

# 森づくりの大切さ全国に発信

6月15日

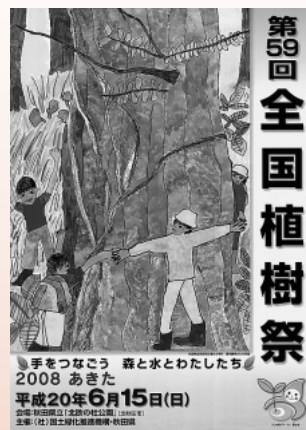
## 北欧の杜公園で第59回全国植樹祭開催

「手をつなごう森と水とわたしたち」をテーマに、第59回全国植樹祭が今年6月15日(日)、県立北欧の杜公園で開催されます。秋田県での開催は昭和43年に旧田沢湖町(現仙北市)で開かれて以来2回目。天皇后両陛下をはじめ全国から訪れる約1万2千人の参加者が、大切な森を未来へつなげる願いを込めて植樹を行います。

## 天皇后両陛下ご臨席の下、記念式典を実施

全国植樹祭は、豊かな国土の基盤である森林・緑に対する国民的理解を深めるため、(社)国土緑化推進機構と都道府県が共催で開催する国民的イベント。国土緑化運動の中心的な全国行事として毎年春季に開催されているもので、天皇・皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、天皇后陛下のごことば、両陛下によりお手植え、お手播き行事、県内外の参加者による記念植樹、国土緑化運動ポスターコンクール等の表彰行事などが行われます。

昭和25年に山梨県で第1回が開催され、以後持ち回りで毎年開催され



▶ 藤本勝繁君(電森小6年)の原画をもとに制作された植樹祭のポスター